

はばたきインクル支援だより



深谷はばたき特別支援学校 平成30年10月1日 No.2



前回の「はばたきインクル支援だより」では、問題となる行動の背景を探りました。情報をもとに、ある程度、背景を推察することができても、実際に児童生徒に関わる際に、「この方法でいいのかな？」と心配になることがあると思います。

今回は、「聞く」ことに関して、教室の中でよく見る不適切な関わりと、具体的にどのように改善すればよいかについて考えていきます。理由を理解し改善することで、児童生徒の思いを引き出したり、主体的な活動を促すことができるようになります



特集 それってNGかも？ どうすればいいの？

その1 一度にいろいろなことを指示する

支援を必要としている児童生徒は、一つのことを成し遂げるだけでも多くの努力を必要としています。また、聞き取りや記憶に弱さを抱えている場合もあります。複数の指示を出されても、混乱するだけで、よい結果を引き出すことはできません。指示は1回につき一つ、できたらほめて、次の課題に取り組むようにします。

教室でよく見るNG

- ・ ノートを書きながらだけれど、耳はこっち(教員)にちょっと向けてね。
- ・ 明日、持ってくるものは、お家からのプリントと、遠足のしおりと、あ、家からのプリントは印鑑を忘れないで押してもらってね。

こうするとよくなる

- ・ 書きながら聞く・話の順番があちこち飛ぶと、聞き取りづらくなります。
- ・ 書いている途中だと思いますが、一度、鉛筆を置いてください。先生の方を見てください。→手を止めているのを確認してから話し始めます。
- ・ 明日持ってくるものを黒板に書きました。連絡帳に書いてください。(右図参照)

さらにワンポイント

- ・ 教室全体を見て、他のことをしている児童生徒はいないか等を確認します。手間がかかるように思われますが、結果として一度の指示でみんながわかるようになるので、何度も指示を繰り返す必要がなくなります。

- 1 保護者からのプリント
(印鑑を忘れずに！)
- 2 遠足のしおり

その2 わかりやすく、言葉を変えて、何度も説明をする

支援を必要としている児童生徒には、記憶の力が弱いことが見られます。長い量の内容は覚えられません。また、言語理解の力にも弱さが見られるので、難しい言葉は理解できず、そこで話を受け入れることが止まってしまうことがあります。

教室でよく見る NG

- ・ 国語の課題のノートをもた提出していなかったね。どうしてなの？理由を言わないとわからないよ？この間も「気を付けます」って言っていたよね？約束は何のためにしたの？来週の月曜日には提出できるの？もうこれで最後だよ。宿題は自分のためにやるんだよ。

こうするとよくなる

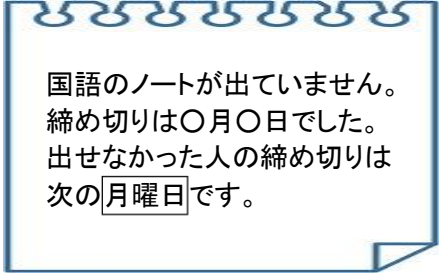
- ・ 大切なことほど、簡潔に、易しいことばで伝えるようにします。「提出→出す」などです。
- ・ メモなど、視覚支援を活用します。(右図参照)

さらにワンポイント

- ・ 理由を聞く時、「どうして？」など5W1H の質問には答えづらいことがあります。Yes・No で答えられるような質問に変えたり、3つ程度の選択肢から選ぶようにすると答えやすくなります。

例1 締め切りを忘れたの？

例2 締め切りを忘れたの？やっていないの？わからなくてできなかったの？



国語のノートが出ていません。
締め切りは〇月〇日でした。
出せなかった人の締め切りは
次の月曜日です。

その3 「何度言えばわかるの？」と言ってしまふ

支援を必要としている児童生徒には、「できない」「頑張ったのに失敗した」という不全感を抱えていることが見られます。上の項目にもあるように、記憶力や聞き取る力に弱さがあるので、みんなとは同じように理解できないことがあります。

教室でよく見る NG

- ・ さっき説明ばかりじゃないの。聞いていなかったの？
- ・ これで〇回目だよ。最後だよ。

こうするとよくなる

- ・ 教員の考え方を変えます。「一度では伝わらないような伝え方しかできなかった」と考えるようにします。どうすれば何度も繰り返さないで伝わるか、方法を探ります。
- ・ 「一斉指示は自分に向けて言っていない」と勘違いしていることがあります。「〇〇さん、もう一度言うよ…」と個別で指示をします。
- ・ 理解を確認します。「今日の3時間目は、教室が変更で、どこに行くんでしたっけ？」などとキーワードを復唱させるようにします。ここで答えられなかったら「もう一度言うね」と繰り返します。
- ・ そもそも指示を聞いていないことがあります。教室全体が静かになったのを確認してから話をするようにします。
- ・ 記憶が弱い児童生徒もいます。聞いていても忘れてしまうことがあります。板書をしてしばらく消さずに残したり、メモを渡します。

さらにワンポイント

- ・ 児童生徒が「わからない」「もう一度言ってほしい」と言うのはとても勇気がいることです。せっかく聞いてきても「今、言ったばかりじゃないの！」と言ってしまふと、次にわからないことがあっても聞けなくなってしまうです。
- ・ 指示の区切りのよいところで「ここまででわからないところがある人はいませんか？」と確認します。
- ・ 「わからない」と言えたら、「ちょっと早口だったかな？ごめん、もう一度言うね。聞いてくれてありがとうね」とほめます。